

世界の

# 春の訪れ、なにから感じる？



あたたかい日が増え、春の訪れを感じるような季節になりました。  
みなさんはどんなもので春の訪れを感じますか？  
たとえば梅や桜の開花、ひな祭り、卒業式や入学式、春分の日など…。  
では、他の国では何をきっかけにして春を感じるのでしょうか？  
世界の「春の訪れを告げるもの」をご紹介します。

## グラウンドホッグデー



アメリカとカナダで2月2日に行われる風習で、ジリスの一種であるグラウンドホッグが冬眠から目覚めたときの行動で春の訪れを占います。その日が晴れでグラウンドホッグが自分の影を見れば冬は長引き、天気が悪く影が見えなければ春が近いとされます。



グラウンドホッグは自分の影をみると、驚いて巣穴にもどってしまうといわれています。

3月8日の「国際女性デー」のシンボルとして、近年は周りの女性にミモザを贈る習慣もあります。



## ミモザ (ワトル)



原産地であるオーストラリアでは、9月1日（オーストラリアでは9月が暦上の春のはじまりです）をワトルの日として、春の始まりをお祝いします。

## テオティワカンの春分 (エキノクシオ)



メキシコ・テオティワカンのピラミッドで行われる春分のお祝いでは、白い衣服に身を包んだ人々が、360段のピラミッドの階段をのぼり、空に向かって腕をあげて太陽の恩恵を受け、エネルギーを吸収します。



春分の日にはアステカ歴で新年に当たります。この頃ピラミッドの真上を太陽が通過します。

ルーマニア・卵博物館ヴァマのブコピアやウクライナ・プーサンカ美術館には世界中のイースターエッグが展示されています。



## イースター (復活祭)



キリストの復活と、春の生命の復活を祝うイースターでは、新たな生命のシンボルとしての卵や、豊穡のシンボルであるウサギのほか、きびしい冬を越えて春に見ごろを迎えるスイセンも希望や再生の象徴として親しまれています。